
小さな飴玉一つ

いっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな飴玉一つ

【Nコード】

N4375P

【作者名】

いっちゃん

【あらすじ】

ある少女が転校して来た。

その少女はとても可愛く、一目惚れしてしまった魁。関係を深めようと、いろいろな事をするが……？
魁の恋愛ストーリー、ぜひご覧になって下さい。

転校生

今日は始業式。

今年から、小学生の最上級生。6年生となった。

その6年生の第一歩のとき、君と出会った・・・

「よう、魁！」

「おう、晴樹。」

俺は、友達と会い、共に学校へ行っていた。

「魁、今日から新学期だろ。転校生来るかな？」

そういえば今日は転校生が来るかもしれない。どんな転校生が来ても、まあ、男ならば俺は仲良くするつもりだ。

「転校生かあ。楽しみだなあ。」

そして、運よく、転校生は俺のクラスに来たのだ。

「おれ魁！よろしくな！友哉！」

転校生には、俺から話をかけて、すぐに友達になった。

そして、晴樹と転校生の友哉と下校をしているとき、俺の斜め前に、

他のクラスにいた、女の転校生をがいた。その周りには、その転校生の新しい友達らしき人がいた。

「魁、あの人も転校生だよな。」

「あ、ああ、そうだな。それがどうしたんだ？」

「ただ聞いてみただけだよ。」

俺は、なぜかずっとその転校生の人の後ろ姿を、ずっと見ていた。

「どこ見てんだ魁？」

「あ、ああ、そこの虫を見てた。」

たまたま見ていた方向に、虫がいた。

そしたら、他のクラスの転校生が振り返って来た

「うい！！」と、心の中で、意味が分からない言葉を発した。それは、とても驚いたからだ。

俺は、そのまま下校していたが、晴樹と友哉と話しながらも、転校生のことを思ってた。その内容は、「結構可愛いな」この一言を。

俺は、ある時、ふと思った。

「一目惚れかも。」

俺は小6だし、もう好きな人ができても全然おかしくない。

俺は、次の日も、そのまた次の日も、転校生が目映るたび、転校生の姿をじっと見つめてしまい、転校生のことを、とても考えてしまう。

新学期が来て、1週間くらい経った頃、俺は完全に確信した。俺は、あの転校生のことを。完全に、恋をしてるかも知れないと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4375p/>

小さな飴玉一つ

2010年12月12日01時30分発行